



勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫
「多様性の力」



アメリカでは、多くのアジア系移民が成功を収めています。しかし、その中で日本、中国、韓国などの東アジア系は、組織のリーダーとして注目される機会が少ない、という研究結果が発表されています。マサチューセッツ工科大学 (MIT) のジャクソン・ルー准教授によるもので、この現象は「バンブー・シーリング (竹の天井)」と呼ばれています。女性が昇進しづらい壁を指す「ガラスの天井」をもじってできた言葉です。

以下の表をご覧ください。MIT の経営大学院が調べた、米 S&P500 社の CEO 中の東アジア系、南アジア系、白人の人数の推移です。一見白人が突出しているようですが、人口当たりでは南アジア系が白人を上回っています。

Year	East Asian	South Asian	White
2010	3	8	433
2011	3	9	437
2012	4	10	433
2013	3	9	443
2014	4	10	446
2015	4	12	451
2016	4	12	451
2017	3	13	440
Mean	3.5	10.38	441.75

東アジア系は、儒教文化の影響が濃く、謙虚な振舞いや、安定、調和が尊ばれ、自分の意見を述べることを余り好みません。同じ民族同士で繋がりがたがる傾向を言う、エスニックホモフィリーが強く、米国のような人種の垣根の環境では十分に力を発揮できないようです。その傾向は統計からも肯けます。日本は 99% が同じ民族です。韓国も同様に 99% が同じ顔つきをしていて、中国も 92% は漢民族だと准教授は指摘しています。

一方、インドなどの南アジア系は、もともと自己主張が得意で、議論を好み、アメリカの文化の中でも違和感なく自然に振舞えるそうです。インドは、「多様性の国」とよく言われます。公用語は 22 ですが、主な言語が 100 以上、その他にも約 1600 の言葉あります。カーストの数は 6400、政党もすべて含めるとなんと 2000 以上あります。

更に、インドが生物多様性の国であることも、頭の良さの背景です。インドの変化に富んだ地形や気候は、熱帯、温帯、高山地帯、砂漠地帯などを形づくり、そこに様々な動植物の生息区域が広がっています。インド国土の広さは世界の2.5%ですが、そこには世界の7%の生物多様性が存在しています。



インドの生物多様性

India – A Megadiversity nation

Habitat Diversity:
India has high mountains range, plateau, plains, desert, etc. provide variety of habitats for plants and animals. Similarly a number of fresh water and saline lakes, reservoirs, ponds, rivers and stream Provides variety of habitats for aquatic plants and animals.

Cultural diversity:
Our country envisages vast cultural diversity from Jammu-Kashmir in north to Kanyakumari in south, and From west Bengal in the east to thar desert in the west. Rajasthan and Madhya Pradesh represent an array of tribal culture.

生息地の多様性、文化の多様性

つまり、インドは数えるものが非常に多く、そのことが頭脳を刺激し、インド人の頭の良さの土台を造ったと想像します。

子供のころから、そうした多様性に富んだ環境で育ったインド人は、自分と違う外観や習慣の人たちと接することに慣れていています。英語力と理数力、それとこのような環境適応力に長けた彼らは、米国のハイテク企業のリーダーとしてだけではなく、政治の世界でも、組織の指導者として力を発揮することでしょう。

~~~~~ お知らせ ~~~~~

皆様、メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。早いもので、インドを色々な角度から書いてきてもう4年が経ちました。皆様の資産運用にお役に立っているでしょうか。

実はお知らせです。国際エコノミストの今井激先生の著書『2024年世界マネーの大転換』（フォレスト出版）が8月23日に発売されました。その第4章「どの角度から捉えてもやってくるインドの時代」は、先生と私との対談です。

内容は、なぜインドなのかを読みやすく纏めたものです。できましたらお手にとってご覧ください。他の専門家のご意見も新NISAが始まる2024年の準備には大変参考になります。

12月7日のिकास交流会には、今井激先生も出席なされます。

それでは皆様、当日のご参加をお待ちしています。

今井 澱  
Imai Kiyoshi  
国際エコノミスト

# 2024年 世界マネー の大転換

話題の専門家4名との  
白熱対談を収録




代表取締役社長  
 渡部清二  
 白泉大学教授  
 西田孝雄  
 エコノミスト  
 嶋中雄二  
 グローバル  
 エグゼクティブ  
 エン・エルマズ  
 マネジメント・バイヤー  
 勝池和夫

景気循環の爆走サイクルが訪れて  
米中から日本への  
資金シフトが始まる!

ファースト出版